

れとこ の森通信

2001 / No.4

100平方メートル運動の森・トラスト



この用紙は環境保全(資源活用)のため
再生紙を使用しています。



NATIONAL TRUST

知床で夢を育てませんか!

いのちあふれる森を次の世代へ――

昭和49年

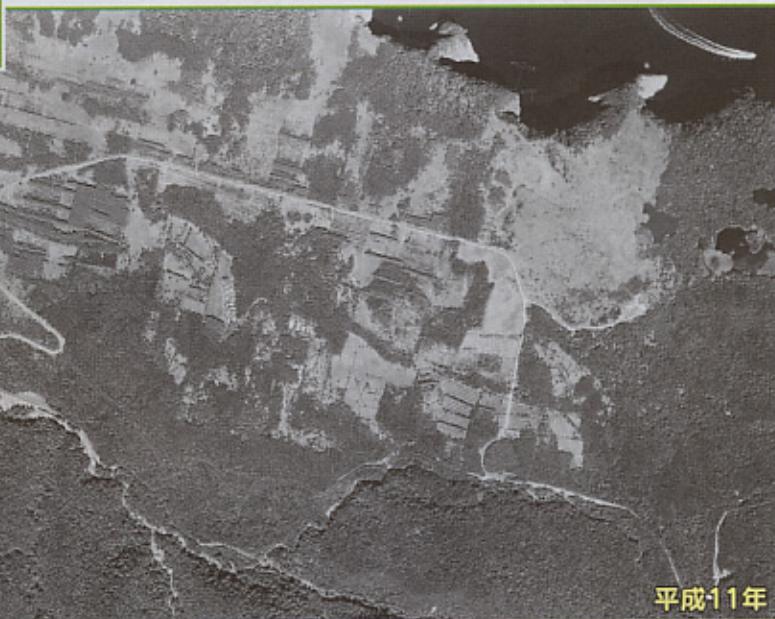


森はよみがえる しれとこの夢



写真左：昭和49年の運動地の空撮。畠の跡がはっきりとわかる。定住者はいなくなったが、通ってきて耕作している人が、まだ一部残っていた時代。

写真下：平成11年の運動地の空撮。黒っぽい部分が森林。森が広がってきたことがはっきりとわかる。しかし、深い森にもどるには、まだまだ長い時間がかかる。



平成11年

「100平方メートル運動の森・トラスト」は、全国4万9千人の人々の熱い想いによって保全された900ヘクタール余りの「夢の場」に、太古の森と野生の躍動を復元しようとしています。百年、二百年先を見すえて、かつてこの地にあつた本来の自然の営みを復元し、未来へと伝えようとしています。その夢の実現には、人の世代を超えたたいへん長い時間を要します。毎年毎年の積み重ねは小さなものにすぎませんが、百年の夢を共に語り、ご支援いただける方々といっしょに、必ずや夢を現実のものにすることができる信じております。

私たちはゆっくりと、しかし、着実に歩みを進めて参ります。今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

斜里町長

牛す
さかえ

表紙写真



かつて開拓によって森が切り開かれた運動地、その台地の縁は、流水と波の浸食による高さ150m前後の断崖となってオホーツク海に接する。そんな断崖の上には、人の侵入を拒み続けた原生林が今も残っている。私たちが再生を目指す森の姿が、見えるような気がした。

森林再生計画

長期全体目標

- 1) 本来この地にあった原生の森を再生する。
- 2) 本来的な野生生物群集と自然生態系の循環を再生する。
- 3) トラスト資産としての運動地の適正な公開と保全のシステムを構築する。

不变の原則

不变の原則は、野生動植物研究の専門家5名と地元の有識者2名からなる専門委員会議で定められた「森の憲法」です。森林再生計画は、この原則を厳守しながら慎重に策定されています。

- 植林木の生長によって余剰の樹木が生じても、運動地の系外への人為的な持ち出しは認めない。
- 自然に再生しつつある二次林では、森づくりのためであっても、大規模な森林構造の急変は行わない。
- 再生計画の実施にあたっては、国立公園および自然教育の場としての位置づけに配慮した森づくりを進める。
- 5年一巡の回帰作業方式をとり、過去の作業結果を評価するモニタリング調査を欠かさない。

- 作業計画の立案や見直しは、定期的に開催する専門委員会議に諮り、承認を得なければならぬ。
- 野生動物とその営みの再生にあたっては、遺伝子汚染を防ぐこと。減少種の回復は、現地の個体群からの増殖を基本とする。また、絶滅種の復元では、遺伝的にも地理的にも極力近い個体群からの再導入を原則とする。

回帰作業方式

しれとこの森づくりは、900haあまりの運動地全体を5つの区画に分け、5年で一巡する回帰作業方式によって、順次作業が進められています。この回帰作業を4回繰り返した20年後に中期目標の達成、さらに100~200年後には長期目標の達成を目指します。もちろん、すべての作業結果は専門委員会議の中で評価され、必要に応じて作業計画や方針の見直し・修正がなされます。



100年の森を目指して!

平成10年から本格的にスタートした森と生物の復元作業。100年以上もの未来を目指す取り組みは、時代ごとにその作業内容が変化してゆくことでしょう。初代「森の番人」の橋本さんを中心に、これまで主に以下のような作業が進められています。

広葉樹をエゾシカの食害から守れ!

急増したエゾシカによる食害対策が今の森づくりの最大の課題。もはや、柵などを使った物理的な保護をしない限り、シカが好む広葉樹の育成は困難。防鹿柵をめぐらせた苗畠づくりや、ネットやベットボトルを用いた樹皮保護作業などに多くの時間が費やされる。



開拓跡の草原に第一世代の林を!

広く開拓された場所は一面のササ原となってしまい、木の種子が落ちてもなかなか生長できない。また強風が吹きぬけることにより、植樹木などの育成も困難。ササを剥がして、散布された種子の生育を図る作業や、防風板を設置して、その風下側に少しずつ林を広げてゆく作戦が展開されている。

植林地を多様な森林へ!

20~30年を経過したカラマツやアカエゾマツなどの植林地は、過密化が進んでお互いの生長を妨げている。これらを適正な密度に調整し、かつ他の樹種の導入による多様化が図られている。

モニタリング調査を欠かさない!

すべての作業において、きちんとその記録を残し、作業結果を追跡調査してゆくことが重要。将来の森づくりの手がかりをつかむため、様々な調査データが集められている。

失われたサクラマスを呼び戻せ!

運動地の川から姿を消してしまったサクラマス。海と川、そして森をつなぐダイナミックなエネルギー循環を復元するために、稚魚や卵の放流作業が継続されている。

森づくり作業



平成12年度の森づくり作業

運動地全体を5つの区画に分けて、毎年順番に作業をすすめています。平成12年度は、岩尾別川右岸の第3区画を中心に森づくり作業を行ないました。またエゾシカ対策を集中的に議論するための検討組織も新たに発足しています。

作業区画地図



平成12年度は第3区画（図の③）を中心に作業が行われました



20年前の台風による氾濫で大きく植生が失われた岩尾別川の河原に、美しい河畔林を復元するための作業。やはりシカ対策の柵は必需品。こちらはその第1号で、隣接地域にさらに2基が完成した。

①柵の内部の種子の発芽状況をチェック。嬉しいことにカツラやハルニレ、ヤチダモなどの実生があちこちに。将来河畔林を形成する樹種たちだ。「ウオー、柵の効果は絶大ですねえー」と森の番人。柵の外ではすべてが一瞬でシカの餌となる。



②エゾシカの大好物であるハルニレは運動地の森から急速に姿を消しつつある。200~300年かけて育ったこんな大木でも、シカにかかるればひと冬で枯木になってしまふ。樹皮剥ぎ防止のためのネット巻きは緊急対策だ。シマフクロウが営巣可能な大木を残すための作業でもある。

③昨秋の実りは、ほとんどの樹種が豊作。苗畑にイヌエンジュの種子をまく森の番人。これまで生産した広葉樹の苗は、約25種、5千本。100年後の知床の森を担う苗たち。





エゾシカ対策の検討本格化!

予想を上回るエゾシカの食害に対応して、シカ対策を集中的に議論する場が新たに設置された。7名の森林再生専門委員に、新たに2名の野生動物研究者を加えた「シカ対策ワーキンググループ」が組織され、密度の濃い検討作業が行なわれている。シカの樹皮剥ぎ被害などが明瞭にわかる6月には、メンバーによる現地視察も行なわれ、今後の森づくりの方策について活発な議論が展開され、以下のような共通認識に至った。



- ① 知床のシカの密度は環境が支え得る限界に近づいてきている。近年減少傾向が見られるものの依然高密度であり、この状態はよほど厳しい冬が来ない限り変わらない。
- ② 現在のシカの密度では、自然状態での広葉樹の育成は困難。人為的なシカの数の調整を行なわないとすれば、柵やネットなどを使った樹木の保護が必須となる。またこれらの樹木保護の効果を正しく評価するための調査もあわせて実施する必要がある。
- ③ シカの問題は運動地のエリア内だけで独立して考えることはできない。国立公園全体を含む国設鳥獣保護区の環境省による管理方針と連動させる必要がある。

その他の森づくり作業としては、強風地区のカシワ林を育成するための防風柵の設置や、過密林の多様化作業、約15ヘクタールの未立木地への針葉樹の苗の植樹など、昨年度も盛りだくさんでした。

平成13年度の事業計画(予定)

平成13年度は、岩尾別台地上の第4区画を中心に作業を行います。

□防風林育成試験

強風のために苗の生長が困難な地域に防風柵をつくり、その風下に防風林の育成を目指します。

□苗畑の防鹿柵補強作業

育成した広葉樹苗をシカの食害から守る柵の高さがやや不安。侵入被害を受けないように、力サ上げ作業を行います。

□アカエゾマツ過密林の密度調整

お互いの生長を妨げあっている過密林を適正な密度へと修正します。

□サクラマス回帰遡上状況調査

放流したサクラマスが回遊を終えて帰ってくるはず。遡上状況を調査します。

□エゾシカ対策ワーキンググループによる検討作業

平成15年からの第2次5カ年計画に反映させるための具体策を、昨年に引き続き集中的に検討します。

このほか、合計約20ヘクタールの未立木地への針葉樹苗の新植と補植、過去の作業地のモニタリング調査、苗畑での広葉樹苗の育成、カラフトマス・シロサケの上流部への再放流作業なども実施予定。



森の交流事業

平成12年度の森の交流事業

昨年も知床の森を舞台に、たくさんの出会いや発見、笑いと感動がありました。初めての方は是非一度！もう来た方は何度も！ 夢を育む森へお越しください。

森づくりワークキャンプ (平成12年11月1~6日)



針金を締めて柱を固定。ただそれだけのことなのだが意外とムズカシイ！



かつての開拓の歴史を保存するため、平成11年に改修した開拓時代の家屋。現在森づくり作業の拠点として、また交流事業の休憩施設としても活用している。ここに住むかと見紛うほど風景にマッチした3人は、森づくりワークキャンプの参加者。



絶妙のチームワークでたちまち2基の柵を完成。「今年のメンバーは素晴らしい！」森の番人から賞讃の言葉も。



森の番人から植樹方法の説明を受ける参加者。まるで手品でも見ているかのような真剣なまなざし。

しれとこ 森のつどい (平成12年9月17日)

午前中は森づくり作業地を見てまわる。快晴の森歩きは文句なしで気持ちいい！





知床自然教室

(平成12年7月30日～8月5日)



●海、山、川、そして原生林。知床ならではの自然体験が深く心に刻まれる。



●シカ対策のネット巻き作業。自然の勉強から森づくりのお手伝いまで。子供も忙しい。



平成13年度 森の交流事業のご案内

今年も以下の3つの企画で皆さんの訪問をお待ちしております。

■知床自然教室

運動参加者の皆さんのお子たちが、キャンプ生活をしながら知床の大自然を体験する7日間。

●期 間 平成13年7月30日～8月5日

●対 象 小学校4年生～高校3年生

●参 加 費 35,000円～154,000円

(出発地によって費用が異なりますのでお問い合わせ下さい)
(集合場所からの往復の航空運賃及び滞在費の全てを含みます)

●集合・解散 全国的主要な空港にて集合・解散

●締 切 平成13年6月30日

●問合わせ 自然教育研究センター

申込先 Tel: 042-528-6595
Fax: 042-528-6596

※斜里町内の方は、斜里町役場自然保護係までお問い合わせ下さい。

■森づくりワークキャンプ

森の番人とともに森づくり作業を体験する6日間。
老若男女、和気あいあいの合宿形式です。

●期 間 平成13年11月1日～6日

●対 象 18才以上

●定 員 12名 (応募が定員をこえた場合は抽選となります)

●集合・宿泊 知床自然教育研修所

●参 加 費 18,000円

(集合場所までの交通費は各自の負担となります)

●締 切 平成13年8月20日

●問合わせ 知床自然センター

申込先 Tel: 01522-4-2114
Fax: 01522-4-2115

■しれとこ森の集い

午前中は森の番人の案内で森づくりの様子を見学。午後は運動地の草原で植樹祭を行ないます。午前・午後、どちらか一方のみでも参加可能です。

●期 日 平成13年9月16日(日)

●集 合 午前の部(森の散策) 9時 知床自然センター
午後の部(植樹祭) 13時

●参 加 費 無 料

(集合場所までの交通費は各自の負担となります)

●問合わせ 斜里町役場自然保護係

申込先 Tel: 01522-3-3131
Fax: 01522-2-2040





かつて運動地の川では、秋になると美しい朱色に体を染めたサクラマスたちが、産卵の饗宴を繰り広げていました。今、その姿は失われてしまっています。

当運動では、その姿を川によみがえらせる活動に取り組んできました。平成11年4月に初めて放流された10万尾の稚魚が、ついに今年、母なる川にもどってくるはずです。

一体何尾が、きびしい自然に打ち勝ち、大きく育ってもどってくるのでしょうか？



2001年 サクラマス

生物相の復元事業第1弾!! サクラマスを復活させたい!!



あっ！自ができている。
受精した卵は、30日ほどで発眼卵になる。



たくさんの稚魚をついて運び、山奥の渓流に放流した。



稚魚たちは、速い流れの中で美しいヤマメとして成長する。

The Cherry Salmon サクラマス

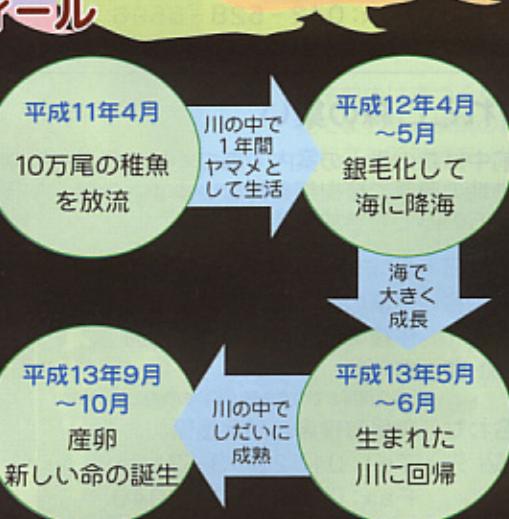
サクラマスはヤマメが海に降りて大きく育ったものです。日本のサケ科の魚類の中で最も美しい魚といわれています。西日本のアマゴはサクラマスの親戚（亜種）で、ヤマメに対するサクラマスが、アマゴでは長良川河口堰問題で有名になったサツキマスにあたります。

北海道では、ヤマメのメスのほとんどと、オスの多くも海に下ってサクラマスになりますが、オスの一部はヤマメとして川の中で一生をすごすものもいます。

今年帰ってくるはずのサクラマスたち そのプロフィール



これまで、平成11年春から平成12年秋の間に33万尾ものサクラマスが、当運動によって放流されました。



生き物たちをよみがえらせます



サクラマスのオス

川は森を養い 森は豊かな海と川を育てる



北の海の巨大な生産力は、大量のサケマスを大きく育て。彼らは川へと遡って産卵します。彼らは森の動物たちの餌となり、力つきで死んだ体は森を養う養分になります。逆に、森は魚たちを育む豊かな清流を刷り出し、森から流れ下るさまざまな有機物が、豊穣の海を支えています。

川とサケマスが架け橋となって維持される森と海との生態系の大循環が、北の自然の特徴です。

マスが帰ってくる!

カラフトマスとシロザケの自然産卵を復元する

運動地を流れる二つの川には、カラフトマスとシロザケの2種類のサケマスもたくさん遡ってきます。しかし、岩尾別川には、河口近くに魚止めの堰が設けられていてサケマスが上流に遡って産卵することができません。つまり、ここで森と海の生態系の循環が断ち切られています。

当運動では、サケマスふ化場の協力を得て、海から上がってきましたカラフトマスとシロザケの一部を堰の上流に運び上げて再放流しています。このことで堰の上流の流域全体に広く彼らの自然産卵を復元させています。平成11年から平成12年までに、カラフトマス1,760尾、シロザケ1,852尾が再放流されました。



カラフトマス

生物相復元 第2弾の生物の検討

100年以上もの未来を目指してつづく太古の森の育成
そこには本来の生き物たちの営みが再現されなければならない。

現在、第1次の対象種として復元がすすめられているサクラマス。それにつづく、第2次対象種の検討が森林再生専門委員会議によってすすめられています。平成12年度の会議では、委員やその他のオブザーバーの専門家による検討が、2日間にわたりて続けられました。その結果、リストアップされたのは、シマフクロウ・オジロワシ・クマゲラ・オオタカ・マダラウミスズメの鳥類5種、オオカミ・カワウソの哺乳類2種です。

すぐには着手が困難な生物もあります。しかし、数十年、100年先の未来を見すえ、知床本来の生態系とは何か、という原点から考えられたものです。

専門委員会議では、平成13年度に具体的な検討作業に入る2~3種に絞り込むことが予定されています。平成14年度を目処に、第2次の復元対象生物を決定することを目指しています。



Illustration by NOBUKO MASUDA

特集 エゾシカ



10
11

知床の冬。シカたちは越冬地と呼ばれる標高の低い森に集結して春を待つ。この時期、彼らが集中的に利用する餌が木の樹皮だ。樹皮食いは、ハルニレやオヒヨウなど特に好きな樹種の細い木から始まるが、シカの密度が高くなるにつれ、太い木や嫌いな樹種にまで手を出すようになってくる。幹の一周をグルリと剥がされるとその木は枯れるしかないのだが、飢えと闘う彼らはなかなか手加減をしてくれない。そのため大量のシカが集まる越冬地の森林はかなり大きなインパクトを受けることになる。私たちが森林復元を目指している「100平方メートル運動地」は、まさにそんなシカの大越冬地を抱えているのだ。森づくりはシカとの闘いである。

(写真❶：ハルニレの大木の樹皮を食べるエゾシカのオス)



❶この地域の1歳以上のメスシカの妊娠率は90%に達する。つまり前年生まれを除くほとんどすべてのメスシカが毎年子供を出産することになる。豪雪を伴う厳しい冬がきて大幅に個体数が減少しない限り、森林は毎年繰り返し強い影響を受け続ける。

❷運動地よりもさらに高密度にシカが生息する知床岬では、ミズナラの大木にまで樹皮食いが及んできた。ミズナラは本来シカが好まない樹種なのだが…。



どうする!? エゾシカとの共存

100平方メートル運動地での森づくりは、専門委員会議で決定された「原則」や「方針」を遵守しながら進められる。原則は不变、方針は20年ごとに見直しが可能と位置付けられており、「エゾシカの数の人為的な調整は行なわない」ことが平成9年策定の方針の中に盛り込まれている。しかしその後のシカによる森林被害の拡大は著しく、現場担当者は戸惑いの色を隠せない。

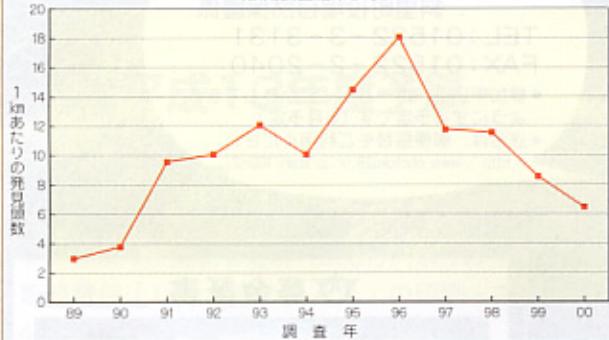
同じ悩みを抱える現場が他の地域にもある。

阿寒湖畔に広がる3,800ヘクタールの森林を管理する前田一步園財団だ。この10数年の被害経過は知床と同様であり、シカが好むオヒヨウなどの樹種の消失、天然更新する稚樹の激減など、古来受け継がれてきた豊かな森がその姿を変えようとしている。これまで4千本にものぼる木へのネット巻き作業や、ビート津の固形飼料の給餌による被害防止など、様々な努力を続けてきたが、ミズナラの樹皮剥ぎの発生に至り、ついに一昨年から有害駆除でシカの数を減らすという苦渋の選択を強いられたことになった。担当者の苦悩は痛いほどよくわかる。

森林にあまりにも大きな影響を与えるシカという動物とどう共存を図るのか？ 森づくりにとって、当面最大の壁である。



岩尾別地区のエゾシカ生息動向
(秋期調査結果より)



運動地のシカの生息動向は？

左図は、運動地の岩尾別地区の生息動向調査結果である。夜間、走行する車の中から、強力なスポットライトを使ってシカを数える手法を用いて、調査距離1kmあたりの発見頭数の推移を示した。調査を開始した1988年には2頭/kmだったシカは、1990年代に入ると爆発的に増加し、1996年には18頭/kmという高密度状態となった。その後、自ら増えすぎたことによる栄養状態の悪化で越冬期の死亡個体が増え、この4年間で大きく減少してきているが、それでもまったく楽観できないのだ。

実は、運動地内に植樹してきた樹木の生育状況を詳細に調査した結果、1982年以降に植樹された苗木のうち育っているのはシカが食べない針葉樹のみで、広葉樹苗はほとんど生育していないことがわかった。つまり、1988年の2頭/kmという数よりもはるかに低密度だったと推測される1980年代初頭のレベルでさえ、シカは森づくりの大きな障害となってしまうのである。



今年もたくさんのご寄付をありがとうございました

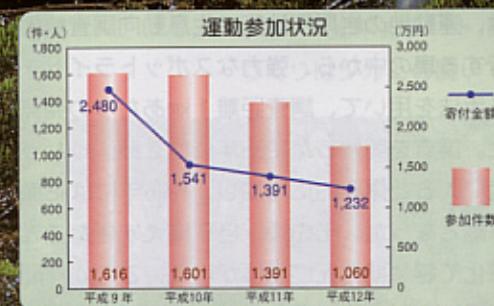


NATIONAL TRUST The Shiretoko 100m² Movement
100平方メートル運動の森・トラスト

参加するには?!

- ①申込書を郵送またはFAXにてお送り下さい。
 - ②寄付金を郵便振替又は現金書留で、斜里町役場までご送金下さい。
- 郵便振替の場合
- 口座番号 02740-8-10555
 - 加入者名「斜里町役場」
 - 申込書は、必ず別送下さい。
- 現金書留の場合
- 斜里町自然保護係へ申込書を同封の上、直接お送り下さい。

森と自然の再生には、人の世代を超えた時間とたいへんな労力が必要です。それは皆様からの毎年の寄付金によって支えられています。
今年も様々な方々のご厚意をいただきました。
200万円ものご寄付を寄せられた98歳のご婦人。
毎年毎年繰り返しご寄付下さる方々。等々。
私たちは、皆様のあたたかいご支援を夢の実現へと着実に活かして参ります。



都道府県別参加状況(平成13年3月現在)

都道府県名	件数(人)	都道府県名	件数(人)	都道府県名	件数(人)
北海道	1,001	石川県	15	広島県	59
(斜里町)	488	福井県	19	山口県	24
青森県	46	山梨県	16	徳島県	12
岩手県	24	長野県	56	香川県	17
宮城県	59	岐阜県	65	愛媛県	14
秋田県	17	静岡県	97	高知県	17
山形県	22	愛知県	364	福岡県	69
福島県	17	三重県	43	佐賀県	22
茨城県	83	滋賀県	43	長崎県	17
栃木県	46	京都府	148	熊本県	17
群馬県	52	大阪府	411	大分県	18
埼玉県	313	兵庫県	214	宮崎県	6
千葉県	293	奈良県	64	鹿児島県	9
東京都	989	和歌山県	23	沖縄県	40
神奈川県	647	鳥取県	16	外 国	18
新潟県	43	島根県	12		
富山県	23	岡山県	28	合 計	5,668

知床で夢を育てませんか!

日々の森作りに活躍する森の番人。
1人ではたいへんな作業ばかりです。
当面の目標は、毎年2000万円の募金を達成し、森の番人2人体制の財源を確保することです。

皆様のご協力を改めてお願ひいたします。

運動に参加されると!

- 将来の森をイメージした募金証書を発行いたします。
- 運動地の森を通じて交流し、森づくりにたずさわる機会をご提供します。
- ご寄付いただいた年の活動状況を翌年の「しげとこの森通信」でお知らせします。
- 5年周期の回帰作業の終了ごとに、報告書をお届けします。

お申込・お問い合わせ先

〒099-4192
北海道斜里郡斜里町本町12番地
斜里町役場自然保護係

TEL: 01522-3-3131
FAX: 01522-2-2040

- 参加申込は、ホームページからもできるようになります(6月予定)
- 送金は、郵便振替をご利用ください。

<http://www.ohotoku26.or.jp/shan/100m2/>

募金証書



★動物画家 田中豊美さんの手による知床の森と動物たちです。メッセージを書き込むこともできます。例えば「祝 お誕生」など、ご友人知人へのプレゼントの形で、ご協力いただくこともできます。

★地元、斜里の木工サークルの方々手作りの書簡も別途ご用意しております。美しい木目が好評です。詳しくは参加申込書の裏面をご覧下さい。

★平成13年6月から額縁の代金を2,200円に変更させていただきます。

A 平成12年度決算

■保全管理事業

平成12年度には、新規の土地取得はありませんでした。約19haの新規植林、補植に882万円、植林地の下刈りに589万円、森林保険に55万円などの事業費が使われました。事務費の内訳は、事務消耗品が21万円、「しれとこの森通信」の発行費用が404万円などです。

■森林再生事業

平成12年度は、第3区画の作業が主に行われました。事業費は、森の番人による現地での森づくり作業に576万円を要しました。また、サクラマスなど生物相の復元事業と自然環境や野生生物のモニタリング調査、及び、専門委員会議やシカ対策ワーキンググループによる検討調査に約210万円などが使用されました。交流事業には240万円を用いました。事務費は、運動のパンフレットや募金証書などの印刷、受付事務員の賃金など394万円余りです。

■森林保全基金と資産の状況

国立公園内森林保全基金の状況

國立公園内森林保全基金			(単位:千円) (平成13年5月20日現在)		
土地保全管理資金(保全事業のための資金)			森林再生等資金(再生事業のための資金)		
	H11年以前	H12年		H11年以前	H12年
歳入	寄付金 522,534	0	522,534	寄付金 54,133	12,318
	利息 67,255	178	67,433	利息 221	9
	計 589,789	178	589,967	計 54,354	12,327
歳出	土地取得 311,167	0	311,167	事業費* 22,979	10,891
	植林等事業 96,148	10,582	106,730	事務費 9,488	2,464
	事務費 81,543	0	81,543	計 32,467	13,355
計	488,858	10,582	499,440		45,822
残高	100,931	△10,404	90,527	残高 21,887	△1,028
					20,859

※事業費には森林再生事業費と森の交流事業費が含まれます。

(単位:千円)



(単位:千円)



※17千円が翌年に繰り越されます

(単位:ha)

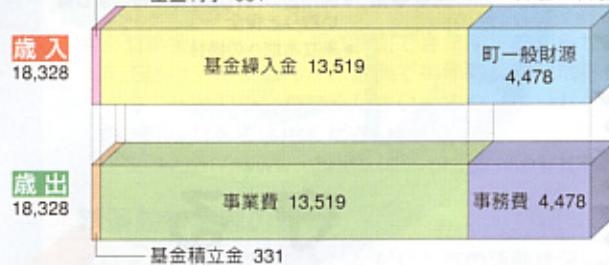
保全された土地の現状	
運動対象地	保全済み地域 936.17
	(運動による保全地域 447.56)
960.55	(既存町有地 488.61)
	未取得地 24.38
	(全体の2.5%)

A 平成13年度予算

■保全管理事業

事業費は今年度で最終年を迎える約20haあまりの植林事業や森林保険の更新など計1,350万円余りが予定されています。事務費は「しれとこの森通信」の印刷・発送の費用など約478万円です。

(単位:千円)



(単位:千円)



■森林再生事業

平成12年度の事業費は総計1,190万円余り。森の番人とその手伝いの補助員の人工費や活動費用に545万円、サクラマスの復元や次の復元対象種の検討、モニタリング調査などに167万円が予定されています。また、専門委員会議やシカ対策ワーキンググループの運営にも約108万円があてられる予定です。その他、交流事業には250万円余りが予定されています。事務費には運動のパンフレットや募金証書などの印刷、受付事務員の賃金など、約508万円が見込まれています。

インターネットでつながるしれとこの夢の森

ホームページをご活用下さい。
<http://www.ohotoku26.or.jp/shari/100m2/>



- *森づくりの様子、しれとこの100平方メートル運動の季節の情報など盛りだくさんで、お届けしています。
- *知床自然教室など「しれとこの森 交流事業」に、参加ご希望の方は、こちらで情報を入手下さい。いつでも参加を受け付けております。
- *ホームページからも運動参加申込が可能となる予定です(6月中)。送金は従来どおり郵便振替か現金書留になります。

知床国立公園カムイワッカ地区 マイカー規制3年目! ご協力下さい!

カムイワッカへは、ゆっくりのんびり、シャトルバスでどうぞ

今年も「奥知床」の自然を守り、知床らしい雰囲気で皆様にご利用いただくために、交通規制が行われます。

- 規制路線：道道知床公園線の知床五湖から奥、知床大橋まで。
- 規制車輌：自転車以外のすべての車輌。
- 規制期間：平成13年7月28日(土)～8月19日(日) 終日規制
- シャトルバス運行時間：午前7時～午後5時40分(約20分間隔で運行)

詳しくはお問い合わせ下さい。

環境省ウトロ自然保護官事務所 TEL:01522-4-2297
 または、斜里町自然保護係 TEL:01522-3-3131(内線124)



知床五湖駐車場が有料化されます (7/1～)

自然公園美化管理財団によって、駐車場の利用料が徴収されることになりました。ご負担をおかけしますが、その収益によって国立公園内の美化清掃が徹底され、知床自然センターが行ってきた自然環境を保全するための調査研究や自然解説サービスのさらなる拡充が図られます。ご協力ください。

【駐車料金】 乗用車：410円 バイク：100円 大型バス：1,600円



しれとこの森通信No.4は、平成12年度に運動に参加いただいた方と、昭和52年から平成9年までの「しれとこの100平方メートル運動」参加者の皆様にお届けしております。



Topics! 環境省が知床国立公園の各種整備を検討中



幌別ビジターセンター

マイカー規制の本格化とともにシャトルバスへの乗換拠点の必要性や自然保護活動の活性化によって、新たな活動拠点の整備が検討されています。知床自然センターと一緒にとして機能を発揮するために、隣接地への整備が検討されています。



知床五湖ヒグマ安全対策施設

ヒグマの絶好の生息地である知床五湖は、すばらしい景観を求めてたくさんの人々が訪れる場所でもあります。ここでヒグマを駆逐することなく、人々の安全も確保することができる施設の整備が検討されています。知床国立公園は彼らとの共存を模索しています。

カードで知床の森づくりをご支援下さい!!

財團の地球防衛基金と株ダイエーオーエムシーでは、地球環境保全に貢献するクレジットカードを発行しています。その中の「知床の自然を守る」カードを使うと、皆様のご負担なしで運動にご寄付いただけます。

*ご利用額の0.5%が、カード会社の負担で「100平方メートル運動の森・トラスト」に寄付されます。

*買い物をしているだけで、新たなご負担なしに運動をご支援いただくことができます。

「知床の自然を守る」カードによる寄付額は毎年約140万円にものぼります。ぜひご活用下さい。



お問い合わせ先

〒141-8511 東京都品川区西五反田7-21-1
 ダイエーオーエムシーカード会員開発部「OMCエコロジーカード」係
 TEL: 03-3495-8615

お願い：毎年たくさんの「しれとこの森通信」が宛先不明で戻ってきます。住所変更の際には、ご連絡ください。